

私学助成署名推進ニュース

全国私立学校教職員組合連合
No.8 2017年7月13日(木)

見直し議論の焦点は国の就学支援金拡充による「自治体間格差是正」!! 国会議員の合意をつかった『7.7.院内集会』

7月7日“七夕の日”に、全国からたくさんの牽牛と織り姫が、子どもたちの「学ぶ権利」の保障を求めて東京永田町の参議院議員会館講堂に参集しました。参議院議員会館で一番大きな会議場「講堂」は、今回も参加者で満杯となりました。閉会中のため事前のご本人出席連絡が13名だった国会議員も、衆参合わせご本人出席22名まで増え、私学の学費問題の集会在りしかり認知されている事を示す結果となりました。

参加された国会議員関係者一覧

本人出席議員のみなさん				代理出席議員のみなさん				
お名前	選出	院	会	No	お名前	選出	院	会
福島みずほ議員	比例	参	社	1	西村智奈美議員	比例北陸信越	衆	民
○ 木戸口英司議員	岩手	参	由	2	倉林明子議員	京都	参	共
升田世喜男議員	比例東北	衆	民	3	池田佳隆議員	比例東海	衆	自
藤野保史議員	比例北陸信越	衆	共	4	木村太郎議員	青森	衆	自
古賀友一郎議員	長崎	参	自	5	舟山康江議員	山形	参	民
磯崎仁彦議員	香川	参	自	6	前原誠司議員	京都	衆	民
本村伸子議員	比例東海	衆	共	7	志位和夫議員	比例南関東	衆	共
高橋千鶴子議員	比例東北	衆	共	8	大見正議員	比例東海	衆	自
穀田恵二議員	比例近畿	衆	共	9	武田良介議員	比例	参	共
松木けんこう議員	比例北海道	衆	民	10	岡本充功議員	比例東海	衆	民
島津幸広議員	比例東海	衆	共	11	辰巳孝太郎議員	大阪	参	共
古川元久議員	愛知	衆	民	12	小川淳也議員	比例四国	衆	民
大島九州男議員	比例	参	民	13	田村貴昭議員	比例九州	衆	共
瀬戸隆一議員	比例四国	衆	自	14	真島省三議員	比例九州	衆	共
☆ 吉川元議員	比例九州	衆	社	15	大平喜信議員	比例中国	衆	共
☆ 畑野君枝議員	比例南関東	衆	共	16	畠山和也議員	比例北海道	衆	共
○ 吉良よし子議員	東京	参	共	17	伴野豊議員	愛知	衆	民
重徳和彦議員	愛知	衆	民	18	佐々木隆博議員	北海道	衆	民
玉木雄一郎議員	香川	衆	民	19	新妻秀規議員	比例東海	参	公
福山哲郎議員	京都	参	民	20	近藤昭一議員	愛知	衆	民
荒井聰議員	北海道	衆	民	21	小此木八郎議員	神奈川	衆	自
大野敬太郎議員	香川	衆	自	22	中根康浩議員	比例東海	衆	民
				23	左藤章議員	大阪	衆	自
				24	菊田まきこ議員	新潟	衆	民
				25	平野達男議員	岩手	参	自
				26	山尾志桜里議員	愛知	衆	民
				27	松浪健太議員	大阪	衆	維
				28	木村義雄議員	比例	参	自
				29	鈴木馨祐議員	神奈川	衆	自
				30	今枝宗一郎議員	愛知	衆	自
				31	神田憲次議員	愛知	衆	自
				32	田中和徳議員	神奈川	衆	自
				33	藺浦健太郎議員	千葉	衆	自
				34	緒方林太郎議員	比例九州	衆	民
				35	野田国義議員	福岡	参	民
				36	伊藤孝恵議員	愛知	衆	民
				37	津島淳議員	青森	衆	自
				38	青山周平議員	愛知	衆	自
				39	大塚耕平議員	愛知	参	民
				40	櫻田義孝議員	千葉	衆	自
				41	鷲尾英一郎議員	新潟	衆	民
				42	熊田裕通議員	愛知	衆	自
				43	三宅伸吾議員	香川	参	自
				44	坂本哲志議員	熊本	衆	自
				45	根本幸典議員	愛知	衆	自
				46	大西健介議員	愛知	衆	民
				47	牧義夫議員	愛知	衆	民
				48	山田修路議員	石川	参	自

※ 受付ご到着順で表記
※ 本人出席=22名
※ 代理出席=48名

議員関係 70名の参加

政党・会派	本	代	計
自民・無会・こころ	4	20	24
民進・無ク・新緑風	8	18	26
公明	0	1	1
共産	7	8	15
維新	0	1	1
自由	1	0	1
社民・市民	2	0	2
無	0	0	0
計	22	48	70
会派数	5		
	本	代	計
衆	15	37	52
参	7	11	18
	22	48	70

☆ …衆議院文部科学委員 9
○ …参議院文教科学委員 2

メッセージ
近藤昭一議員 愛知 衆 民

全国から198名の参加者

本人22名、代理48名

70名の国会議員関係者参加!!

「就学支援金制度」2回目の見直し議論がすでに開始された2017年度の「7・7 学費の公私間格差・自治体間格差是正について考える院内集会」には、全国27都道府県から198名の父母と教職員が参加しました。第193回通常国会は6月中に閉会となりましたが、この日国会議員関係者は、ご本人22名、代理48名の計70名の参加がありました。



自治体間格差是正のために 就学支援金制度の大幅拡充を

冒頭、「全国私学助成をすすめる会」共同代表の神奈川：青木さんは「親の学費負担は非常に重い。給付制奨学金も拡げてほしいが、まず高校の無償化を実現してほしい。そのためには就学支援金の見直し議論を拡充につなげてほしい。ご多忙中ご参加くださった国会議員の先生方もぜひお力をお貸しください」とあいさつしました。



つづいて同じく同会共同代表である永島民男全国私教連中央執行委員長は資料を挙げながら、「東京で年収760万円まで授業料無償を実現したことが、埼玉、神奈川、茨城など関東での県単独助成拡充に広がった。全国私教連による「経済的理由による中退・学費滞納調査」においても中退・滞納ともに過去最低になってきている。また中学生が私立高校を選択できる状況も前進している。しかし、国が加算支給している年収590万円未満世帯までの県単補助は18の自治体でしか実現していない。そのため自治体間格差が拡大している。この格差を無くすためにも就学支援金制度の拡充を強く求める」と見直し議論が行われる今年度の運動の基調を含めてあいさつしました。

「人間の尊厳を」「格差なく学べるように」「無償化の流れを」

国会議員の方々
のあいさつ後、参加者3人から発言がありました。京都の山本さんは、「あんしん就学支援金」



で助かっている一方、大学進学に当たっての負担の厳しさに学費負担の家庭内格差が生じている事を訴えられました。愛知の西手さんは、バイト漬けの生徒、ダブルワーク等の保護者の現状とその打開のために無償化の流れを愛知へと取り組みを強めている状況が語られました。新潟からは卒業生の山田さんは、現在、自分への不当な扱いについて闘っているが、その土台には高校時代の私学助成運動をとおして学んだ「人間の尊厳」についての思いがあると発言されました。

議員発言、スタート集会の様子は次号にて